

学科	美容科	担当教員	宗像		
科目名	関係法規・制度	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	法律が美容師とどう関わるのか、具体的事例を通じて学ぶ。国家試験に合格できる十分な点数を取るために、正確な知識を習得する。暗記に頼らず、「なぜ」法律にこう規定されているのか、自ら考える力をつけることに重点を置く。				
授業回	学習内容			備 考	
1	(1)法制度の概要・法とは何か (2)美容師免許の取得方法 【到達目標】 法律とは何かを説明できる。美容師となった時に、法律とどう関わりを持つのか、法律の存在意義を知る。美容師免許を取得するまでの過程を説明できる			毎回プリントを配布するため、「関係法規」のファイル（フラットファイル）を用意すること。第一回目の授業で詳細をお伝えする。	
2	(1)用語の定義 (2)美容師免許制度 【到達目標】 法律上「美容」や「美容所」がどういう意味であるかを的確に説明できる。美容師免許の取得後の扱いについて説明できる				
3	(1)美容師の守るべき義務 (2)美容師に対する行政処分 (1)管理美容師 【到達目標】 美容師の負う義務について知るとともに、どのような違反をするとどのような処分がだされるかが理解する。管理美容師の仕事内容・資格の取得方法など管理美容師の全てを体系的に把握できる				
4	(2)美容所の開設 (2)立入検査 【到達目標】 美容所の解説の流れを説明できる。さらに開設後に行われる検査について説明ができる				
5	(1)開設者が負う義務 (2)美容所以外の業務 【到達目標】 解説者が負う義務とそれに対する処分を理解する。美容所以外で美容業ができる場合を説明できる				
6	(2)行政処分・罰則 (3)行政機関・保健所・衛生行政 【到達目標】 誰がどのような違反をするとどの処分、罰則が出されるか、正確に答えることができる。保健所が行政機関としてどのように美容所に関わっているかを説明できる。				
到達目標	美容師法の基本知識を正確に取得する。 一つ一つの条文の具体的場面を説明することができる。 その条文が「なぜ」存在しているのか、「何のために」設けられているか、説明することができる				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3)を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	関係法規・制度（公益社団法人日本理容美容教育センター）				

学科	美容科	担当教員	岩崎		
科目名	衛生管理（公衆衛生）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	公衆衛生・環境衛生を学習し、病気にかからないようにする				
授業回	学習内容			備 考	
1	①微生物と人との関係・②公衆衛生の歴史 【到達目標】①微生物の存在と人の防御力を知る、②WHOや歴史上の人物について知る、我が国についても学ぶ				
2	保健所の仕事、保健制度について学ぶ 【到達目標】保健制度やそれにかかわる語句を覚える。(例)合計特殊出生率など				
3	成人・高齢者保健 【到達目標】①死亡率の低下や平均寿命について学ぶ、②生活習慣病の各論を詳しく学ぶ				
4	介護保険制度 【到達目標】介護保険制度について詳しく学ぶ			小テスト実施	
5	環境衛生 【到達目標】①ホメオスタシスや我々を取り巻く環境について学ぶ、②気候や病気について学ぶ				
6	空気環境、温度・湿度、風 【到達目標】①空気成分や酸素と人の健康、公害について学ぶ、②不快指数や衣服・住居の衛生について学ぶ				
7	採光、冷暖房、上下水道、廃棄物など 【到達目標】①浄水場の仕組みや水と健康について学ぶ、②一般廃棄物と産業廃棄物の違いを学ぶ				
8	衛生害虫とネズミ、まとめ 【到達目標】①衛生害虫の特徴を学ぶ、②過去問題による総まとめ				
到達目標	公衆衛生の維持向上に寄与し、お客様にアドバイスできるようになる				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	衛生管理（日本理容美容教育センター） プリント				

学科	美容科	担当教員	佐藤		
科目名	衛生管理（感染症）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	病原菌の性質と感染経路を理解する・啓蒙活動の準備もする				
授業回	学習内容			備 考	
1	感染症の歴史を理解する			テキストあり	
2	感染症の分類（法律上・その他）を理解する				
3	微生物の大きさ・構造・増殖の仕方など理解する				
4	汚染・感染・発病の意義を覚え、免疫も理解す			小テストあり	
5	感染経路各論				
6	空気・飛沫を介して感染する感染症各論				
7	飲食物を介して感染する感染症各論				
8	血液を介して感染する感染症、その他の感染症、総まとめ				
到達目標	感染症の正しい知識と蔓延予防対策を学び、美容業における具体的な衛生処置法を身に付ける				
評価方法	各期試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	衛生管理（日本理容美容教育センター） プリント				

学科	美容科	担当教員	岩崎		
科目名	衛生管理（衛生管理技術）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	消毒薬の長所・短所を覚え、自分やお客様に感染しない・させないようにする				
授業回	学習内容			備 考	
1	①消毒の原理・②消毒の意義 【到達目標】 汚染、感染、発病、殺菌、消毒、滅菌、防腐の定義を覚える。消毒器の構造および使用方法を理解する。				
2	消毒を怠った際の危険性と美容師の責任 【到達目標】 美容所で起こりうる感染例、美容における消毒の重要性について学ぶ				
3	①消毒法の分類、②理学的・化学的消毒法 【到達目標】 煮沸、蒸気消毒、紫外線、ろ過、放射線など各種消毒薬の分類を覚える				
4	消毒に必要な条件 【到達目標】 ①水分、温度、濃度、時間の必要性について学ぶ、②テスト問題の解説			小テスト実施	
5	①病原性微生物の抵抗性、②理学的消毒法各論 【到達目標】 ①芽胞について、②紫外線消毒、煮沸消毒、蒸気消毒の特徴について学ぶ				
6	化学的消毒法各論 【到達目標】 ①各消毒薬の特徴と長所・短所について学ぶ				
7	優れた消毒法の条件と消毒法の実習 【到達目標】 消毒法を選定する目安および消毒の一般的注意事項を覚える。消毒薬の濃度計算方法を覚える。				
8	器具の使い方、まとめ 【到達目標】 ①メスシリンダー使用法・対象別消毒法について学ぶ、②過去問題による総まとめ				
到達目標	適切な消毒法の選択ができるようにする				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	衛生管理（日本理容美容教育センター） プリント				

学科	美容科	担当教員	松戸		
科目名	保健（人体）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	20
教育目標・ ねらい	人体の解剖（特に胸部～頭部、顔にかけて）構造、仕組み、働きを理解する				
授業回	学習内容			備 考	
1	美容保健を学ぶ意図を知り、頭部顔部頸部の構成及び名称について学ぶ				
2	骨の構造と働き、名称について学ぶ				
3	筋の構造と働き、名称について学ぶ				
4	神経の構成と人間の働き、感覚器との関連を学ぶ				
5	感覚器系の種類と特徴及び疾患について学ぶ				
6	血液、循環器の名称と働き、リンパの役割について学ぶ				
7	呼吸器系の名称及び仕組み、疾患について学ぶ				
8	消化器系の仕組みと名称役割を学ぶ				
到達目標	人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業として、必要な人体構造の基本知識を身に付ける				
評価方法	各期試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	保健（日本理容美容教育センター）				

学科	美容科	担当教員	宮原		
科目名	保健(皮膚科学)	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	20
教育目標・ ねらい	皮膚科学を学び、皮膚と人体が切っても切れない関係にあることを知る				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章 皮膚の構造 (1)皮膚とは(表皮、真皮、皮下組織) (2)表皮(角質層、顆粒層、有棘層、基底層)			テキストP.68～	
2	第1章皮膚の構造 (1)真皮(膠原繊維、弾性線維、肥満細胞) (2)皮下組織 (3) 皮膚の部位差			～P.77 1回目の確認小テスト	
3	第2章 皮膚付属器官の構造、皮膚付属器官とは(毛、立毛筋、脂腺、汗腺、爪) (1)毛 (2) 立毛筋			テキストP.78～	
4	第2章 皮膚付属器官の構造、皮膚付属器官とは(毛、立毛筋、脂腺、汗腺、爪) (1)脂腺 (2)汗腺 (3) 爪			～P.89 3,4回目の確認小テスト	
5	第3章 皮膚の循環系と神経系 第4章 皮膚と付属器官の生理機能			テキストP.90～	
6	第4章 皮膚と付属器官の生理機能 (1) 対外保護作用 (2) 体温調節作用 (3) 知覚作用と皮膚反射 (4) 分泌排泄作用 (5) 吸収作用 (6) 免疫解毒作用 (7) 再生作用 (8) 毛・爪のはたらき			～P.89 5,6回目の確認小テスト	
7	第5章 皮膚と付属器官の保健 (1) 皮膚と全身状態 (2) 皮膚と精神 (3) 皮膚と栄養 (4) 皮膚と嗜好品 (5) 皮膚と体内病変			テキストP.108～	
8	第5章 皮膚と付属器官の保健 (6) 皮膚の水分と脂の状態 ①しわ(たるみ)の原因 ②乾皮 ③ あぶら症の皮膚 ④ 敏感肌			テキストP.113～	
9	第5章 皮膚と付属器官の保健 (7) 皮膚・付属器官とホルモン ① 皮膚とホルモン ② 脂腺とホルモン ③ 毛とホルモン			テキストP.118～ 7～9回目の確認小テスト	
10	前期試験				
到達目標	人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業として、必要な皮膚科学の基本知識を身に付ける				
評価方法	前期試験結果に加え、各小テスト合計点を加味した合計100点満点で評価する。 なお、所定時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	保健(日本理容美容教育センター)				

学科	美容科	担当教員	宮原		
科目名	保健(皮膚科学)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	20
教育目標・ ねらい	皮膚科学を学び、皮膚と人体が切っても切れない関係にあることを知る				
授業回	学習内容			備 考	
10	第5章 皮膚と付属器官の保健 (8)皮膚の保護と手入れ(フケ症、紫外線対策、固い皮膚の手入れ) (9)毛の保護 (10) 爪の手入れ (11) 子供のおしゃれによるトラブル			テキストP.121～	
11	第6章皮膚と付属器官の疾患 (1)皮膚の異常とその種類 ①原発疹 ②続発疹			テキストP.132～ 10・11回目の確認小テスト	
12	第6章 皮膚付属器官の疾患 (2) 皮膚疾患の原因 (3) 皮膚疾患の治療法(医療行為であることを説明) (4) 皮膚と湿疹、蕁麻疹、薬疹 ①接触皮膚炎 (カブレ)			テキストP.135～	
13	第6章 皮膚付属器官の疾患 (4) 皮膚と湿疹、蕁麻疹、薬疹 ①接触皮膚炎 (カブレ)～ ②湿疹患者のケア			～P.149 12・13回目の確認小テスト	
14	第6章 皮膚付属器官の疾患 (5) 口唇の疾患 (6) 温熱・寒冷による皮膚疾患 (7) 角化異常による皮膚疾患 (8) 色素異常による皮膚疾患			テキストP.150～	
15	第6章 皮膚付属器官の疾患 (9) 血管腫 (10) 脂腺母斑 (11) 下肢静脈瘤 (エコノミークラス症候群)			～P.156 14・15回目の確認小テスト	
16	第6章 皮膚付属器官の疾患 (12) 分泌異常による皮膚疾患 (13)化膿菌による皮膚疾患 (14) ウィルスによる皮膚疾患			テキストP.157～	
17	第6章 皮膚付属器官の疾患 (15) 真菌による皮膚疾患 (16) 衛生害虫による皮膚疾患 (17) 感染症の皮膚疾患の予防			テキストP.164～	
18	第6章 皮膚付属器官の疾患 (18) 毛と爪の疾患 (19) 皮膚の腫瘍			～P.181 16～18回目の確認小テスト	
10	前期試験				
到達目標	①各々の皮膚疾患の原因を理解する ②皮膚の腫瘍には良性と悪性があることを理解する ③原発疹と続発疹の違いを理解している				
評価方法	前期試験結果に加え、各小テスト合計点を加味した合計100点満点で評価する。 なお、所定時数 (全体の2/3) を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	保健 (日本理容美容教育センター)				

学科	美容科	担当教員	村松		
科目名	香粧品化学	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	45
教育目標・ ねらい	ビューティークリエイターとして必要な香粧品化学の専門知識を習得し、提案出来るようになる				
授業回	学習内容			備 考	
1	香粧品概論1：ガイダンス 香粧品の社会的意義、品質特性、規制			プロジェクター・PC	
2	香粧品概論2：香粧品の安定性、取り扱い上の注意、安全性			プロジェクター・PC	
3	基礎化学1：物質の構造、イオン、中和反応、pH、酸と塩基、塩			プロジェクター・PC	
4	基礎化学2：酸化還元反応、有機化合物、アルコール、油脂			プロジェクター・PC	
5	香粧品用原料1：香粧品の種類と機能、水性原料			プロジェクター・PC	
6	香粧品用原料2：油性原料（油脂、ロウ類）			プロジェクター・PC	
7	香粧品用原料3：油性原料（炭化水素、その他の油性原料、機能）			プロジェクター・PC	
8	香粧品用原料4：界面活性剤（コロイドの基礎、基本性質）			プロジェクター・PC	
9	香粧品用原料5：界面活性剤（種類、応用）			プロジェクター・PC	
10	香粧品用原料6：高分子化合物（種類、特性、応用）、色材、香料			プロジェクター・PC	
11	香粧品用原料7：品質保持・特殊配合成分、ネイル・まつ毛用材料			プロジェクター・PC	
12	基礎香粧品1：皮膚洗浄用香粧品、化粧水			プロジェクター・PC	
13	基礎香粧品2：クリーム・乳液、化粧液、その他			プロジェクター・PC	
14	メイクアップ用香粧品：ファウンデーション・紅類、アイメイク他			プロジェクター・PC	
15	頭皮・毛髪用香粧品1：シャンプー・リンス・トリートメント剤			プロジェクター・PC	
16	頭皮・毛髪用香粧品2：スタイリング剤、パーマ剤			プロジェクター・PC	
17	頭皮・毛髪用香粧品3：ヘアカラー剤、育毛剤			プロジェクター・PC	
18	芳香製品 特殊香粧品（サンケア、美白、制汗、防臭、ニキビ用）			プロジェクター・PC	
	各授業内容の学習後、問題演習において正解を得るレベルまで知識を整理習得する。 毎回の学生準備：テキスト・講義プリント・筆記用具				
到達目標	香粧品の機能と原料を理解し、適切に「お客様へ提案」するための基礎知識を得る。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	香粧品化学（日本理容美容教育センター編）				

学科	美容科	担当教員	高橋（み）		
科目名	文化論（美容文化論）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	5
教育目標・ ねらい	日本・西洋のヘア・メイク・服装の移り変わりを学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章：総論 第2章：日本の理容業・美容業の歴史				
2	第3章：ファッション文化史（日本編） 縄文・弥生・古墳時代 中世・近世Ⅰ・Ⅱ 近代（明治・大正・昭和20年まで）				
3	第3章：ファッション文化史（日本編） 現代Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ				
4	第4章：ファッション文化史（西洋編） 古代エジプト、古代ギリシャ・ローマ 古代ゲルマン、中世ヨーロッパ、近世				
5	第4章：ファッション文化史（西洋編） 現代				
到達目標	現代までの髪型・メイク・服装の変化の過程を知り、美の成り立ちやあり方を理解する				
評価方法	期末筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	文化論（日本理容美容教育センター）プリント				

学科	美容科	担当教員	大塩		
科目名	文化論(絵画法とデッサン)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	10
教育目標・ ねらい	デッサンを通して描画力・表現力・集中力・持続力を身につける				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	鉛筆デッサンのための道具の使い方、描写の練習			学生持参：鉛筆、消しゴム、練りゴム、スケッチブック、カッター(鉛筆削り)	
3・4	鉛筆デッサン 顔のパーツを描く			学生持参：モチーフとなる切り抜き・写真、鉛筆、消しゴム、練りゴム、スケッチブック、カッター(鉛筆削り)	
5・6	ヘアデザイン画1 下絵			学生持参：鉛筆、消しゴム、練りゴム、スケッチブック、カッター(鉛筆削り)、資料	
7・8	ヘアデザイン画2 制作			//	
9・10	ヘアデザイン画3 制作				
到達目標	想像力を高め、頭の中に思い描いたイメージを具現化するための表現力を身につける。 持続性のある集中力を身につける。人体がどのように構成されているのか、描画を通して理解する				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント				

学科	美容科	担当教員	畑中		
科目名	運営管理（マーケティング）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	仮想店舗の創作を体験したり、「運営管理」のテキストで理論を習得したりすることで、将来、サロン内外で管理業務的職務の遂行が必要になった場合に対応できるようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	「運営管理」テキストを活用した「経営の視点」の習得 【到達目標】 ・企業が存続し続けなければならない理由や、経営戦略とは何かを説明できるようになる。				
2	「運営管理」テキストを活用した「理美容業経営の視点」の習得 【到達目標】 ・外部環境の変化とは何か、顧客とはどのようなものかなどを説明できるようになる。				
3	「運営管理」テキストを活用した「労務管理知識」の習得 【到達目標】 ・労働基準法や給与について、労働安全衛生法などの概要を説明できるようになる。				
4	「運営管理」テキストを活用した「社会保険知識」の習得と小テスト 【到達目標】 ・社会保険の種類とその中身を説明できるようになる。				
到達目標	サロン運営の基礎知識を学び、将来的に、店舗オーナーや管理者になったときに役に立つ知識を課そう体験すると同時に、国家試験科目の「運営管理」に対応できるものとする。				
評価方法	前期試験結果に加え、各小テスト合計点を加味した合計100点満点で評価する。 なお、所定時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	運営管理(日本理容美容教育センター)及びプリント プリントは紛失すると履修できないので、必ずファイリングし、授業に持参すること				

学科	美容科	担当教員	阿見・藤野・山下・星野		
科目名	美容技術理論	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業時間数	学習内容				備 考
1	序章 美容技術理論を 学ぶにあたって	(1) 美容理論と美容技術 (2) 美容技術における作業姿勢 (3) 美容技術に必要な人体各部の名称			
2	1章 美容用具	(1) 美容技術における用具 (2) 各用具の取り扱い方 (3) 授業における各用具の取り扱い方			
3	2章 シャンプーイン グ	(1) サイドシャンプー (2) バックシャンプー (3) ヘッドSPA			
4	3章 ヘアデザイン	(1) 美容とデザイン			
5	4章 ヘアカットイング	(1) シザーズとレザーの取り扱い方 (2) 正しい姿勢とブロッキング (3) 基礎理論とカット技法			
6	5章 パーマネント ウェービング	(1) パーマネントウエーブの理論 (2) パーマ剤の分類と注意事項 (3) パーマネントウエーブ技術			
7	6章 ヘアセッティング	(1) オールウエーブの作り方 (2) 各種カール (3) アップスタイリング			
8	7章 ヘアカラーリング	(1) ヘアカラーの種類と染毛のメカニズム (2) 色の基本とアンダートーン、パッチテスト (3) 酸化染毛剤、酸性染毛料の技術手順			
9	学期末試験	前期末学科試験			
10	8章 エステティック	(1) エステティック概論 (2) フェイシャルケア技術 (3) ボディケア技術			
11	9章 ネイル技術	(1) ネイル技術概論 (2) ネイルケア (3) アーティフィシャルネイル			

授業時間数	学習内容		備考
12	10章 メイクアップ	(1) メイクアップ概論 (2) 色彩と皮膚、道具について (3) メイク技術	
13	11章 日本髪	(1) 日本髪種類と特徴 (2) 日本髪の装飾品と結髪道具 (3) 日本髪の結髪技術と手入れとかつら	
14	毛髪化学	(1) 毛髪の基本 (2) 薬剤の基礎知識 (3) 毛髪の構造	
15	学期末試験	後期期末学科試験	
到達目標	美容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、美容師としての基礎的知識を習得する。		
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る学生は受験することができない		
テキスト	「美容技術理論1・2」		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う		

学科	美容科	担当教員	阿見・藤野・山下・星野		
科目名	美容実習	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	540
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業回	学習内容				備 考
1～3	基礎トレーニング	美容技術の基礎として、正しい道具の持ち方や使用方法ならびに正しい作業姿勢を 技術理論の教科書に沿って学び、美容師としての基礎的知識技能の習得。			10時間
4～8	ブロッキング	カッティングやワインディングなどの施術を正確に容易にするために、正しいスライスで毛髪を分け、頭部をいくつかに分けるブロッキング技術を習得する。			20
9～13	ワンレングスカット	ワンレングスカットの特徴である同一線上のカットラインを表現できるようになる為に、ヘアカッティング理論と技術を習得する。			24
14～22	セイムレイヤー	セイムレイヤーカットの特長である全ての毛髪が同じ長さで切り揃えられることが出来るようになる為に、ヘアカッティング理論と技術を習得する。			40
23～40	グラデーションカット	グラデーションスタイルの特徴である段差の種類をならびに縦スライスの取り方を学ぶことで、グラデーションカットデザインの幅を理解し、目的に合わせて、使い分けられるよう理論及び技術を習得する。			50
41～57	ワインディング (オールパーパス)	パーマネントウェーブ技術に必要な理論ならびにワインディング技術（上巻き、下巻き）を習得する。			90
58～72	サイドシャンプー	サイドシャンプーを通じて、技術姿勢やお客様に快感を与えられるようになる為に、シャンプー理論と技術ならびに職業人として、お客様から好感を持たれる接客力の習得。			70
73～115	オールウェーブ セッティング	オールウェーブセッティング技術に必要な理論ならびにオールウェーブセッティング技術（フィンガーウェーブ、ピンカール）を習得する。			80
116～121	ネイル	ネイリスト技能検定試験3級同等の、ネイルケア・カラーリング、ネイル理論・技術の習得。			24
122～130	メイク	メイクによってお客様の美しさをより引き出すために、骨格や肌の色、バランスに合わせたナチュラルメイクが表現できるよう、フェイスプロポーション・ベースメイク・ポイントメイクの技術を習得する。			40
131～145	セット	セットに必要な美しいフォルムバランスや、毛流れ、面の艶を表現できるようになるため、仕込み(事前準備)やスタイリング剤の種類・量、多彩なコーム・ブラシによるセットの基礎技術を習得する。			74

授業回	学習内容		備考
146～150	カラーリング	染毛する毛髪の長さや部位に合わせた実践的なヘアカラーリングの理論および技術の習得。	18
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的技能を習得する。		
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない		
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う		

学科	美容科	担当教員	阿見・藤野・山下・星野		
科目名	美容実習（実務実習）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	サロンの仕事内容ややりがい、現状の理解				
授業回	学習内容			備 考	
第22週～ 第26週目	実務実習準備 サロンワークの事前トレーニング (パーマヘルプ、掃除、接客マナー)				
第27週・ 第28週目	実務実習 開店準備、清掃、お客様対応（雑誌選び、お茶出し） 反省会、レポート記入				
第29週・ 第30週目	振り返り 自身の反省点や成長などをグループワークを通して共有、再確認する				
到達目標	サロンワークを通して現場を学び、自身の就職や向上心を養う				
評価方法	所定時数の実習を行っていること、並びに課題レポートを提出していることが評価の前提となる。そのうえで、実習先の美容サロンによる1次評価と教員による2次評価を100点満点で評価する				
テキスト	プリント				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、実習生である学生に対し実践的アドバイスと評価を行う				

学科	美容科	担当教員	齋藤		
科目名	芸術・ファッション（美容色彩学）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	サロンワークに必要な色彩とカラーテクニックの基礎を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	美容師と色彩学 【到達目標】身近な色彩、色はなぜ見えるのかを学ぶ			プロジェクタ・筆記 用具	
2	色の三属性・PCCS（色相環） 【到達目標】色の三属性（色相・明度・彩度）、PCCS色相環を学び、色の仕組みを 理解する				
3	PCCS（トーン）・色の心理効果 【到達目標】PCCSトーン、色の持つ心理効果を学び色の見え方・感じ方を学ぶ				
4	色彩調和 【到達目標】色彩調和として配色テクニックと色の持つイメージを学ぶ				
到達目標	美容師に必要な色彩の知識・色彩検定3級の知識を身につける				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント				

学科	美容科	担当教員	杉下		
科目名	芸術・ファッション (ファッション学)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	1. ファッションコーディネートの感覚とバランスを掴み、理解すること 2. ファッションを通してプレゼンテーション能力を養う				
授業回	学習内容			備 考	
1	ファッションについて ファッションについての追求・ファッションにおける基本について、コーディネイトを作るために必要なこととは 【到達目標】 ファッション全般について理解を深める			今後の授業内容の説明	
2	Fashion Identity のプレゼンテーション 生徒各自で作ったコーディネイトの発表 【到達目標】 (1)プレゼンテーションを通して、新たなファッションを見つける「道しるべ」について考える (2)ファッションに必要なディスカッション能力の養成				
3	Briefに基づいた作品のプレゼンテーション 生徒の作品(コーディネイト)を発表 【到達目標】 ディスカッションを通し、さらにファッションを向上させる方法を見つけ出すこと				
4・5	1～3回までの授業を踏まえ、ファッションスタイリング+クリエイションの大作を制作する 【到達目標】 この回でプレゼンテーションを行い、最初の作品からどれだけ個々のスタイリング力が伸びたかを確認する			創作WIGを使用	
到達目標	ファッションコーディネートの基本原理を学び、ヘアショーを通してコンセプトに対しての衣装管理、スタイリング、ヘアメイクの作成を手掛け、オリジナリティーのある発送と表現方法を身に付ける				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント				

学科	美容科	担当教員	杉崎		
科目名	表現技術（話し方論）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	社会人として必要なコミュニケーションツールである、言葉づかい、電話応対などの表現スキルを上げます。12月のジョブパス検定3級合格を目指します。				
授業回	学習内容			備 考	
1	社会人としての心構え。話し方、聞き方のポイント。			ガイダンス	
2	好感のもたれる話し方（丁寧語、尊敬語、謙譲語の練習問題と復習）			ワークブック	
3	電話応対（マナーと配慮するポイント）			ワークブック	
4	電話の受け方（さまざまな場面での受け方の練習）、マニュアル作り			ワークブック	
5	電話のかけ方（さまざまな場面での応対練習）、マニュアル作り			ワークブック	
6	電話のかけ方（さまざまな場面での応対練習）、マニュアル作り			ワークブック	
7	話し方論まとめ。練習問題と一般常識（税金など）			ワークブック	
到達目標	12月のジョブパス検定3級に合格する。社会人としての言葉遣いを身につける。				
評価方法	ビジネスマナーワークブック提出（2回）及びジョブパス検定3級合格にて単位取得				
テキスト	ビジネスマナーワークブック、ビジネス能力検定3級テキスト				

学科	美容科	担当教員	杉崎		
科目名	表現技術（国語と文章）	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	25
教育目標・ ねらい	企業の組織や役職、社内、社外文書やメールを通してビジネス実務を身につけます。新聞記事を活用して、時事用語、ビジネス関連常識を増やしていきます。				
授業回	学習内容			備 考	
1	PCのオペレーションと活用方法。組織図作り（役職と役割）			ワークブック	
2	ビジネス文書の役割を知る（受発信の流れと、表記法について）			ワークブック	
3	商取引上の文書の種類（稟議書など帳票と印鑑、デジタルツール）			ワークブック	
4	社内外文書の相違点と注意ポイント。フォーマットの説明			ワークブック	
5	文書構成のまとめ。さまざまな社交文書の書き方と表現のポイント			ワークブック	
6	グラフの種類と作成ポイント。メール作成上の注意点を説明			ワークブック	
7	新聞記事の読み方。ビジネスで使用頻度の高い漢字100字練習			ワークブック	
8	ジョブパステキストと総復讐（テキスト総復習）			ジョブパステキスト	
9	ジョブパステキストと総復讐（主に時事用語）			ジョブパステキスト	
10	過去問題を解く。丁寧な解説をします（令和2年12月分）			過去問題	
11	過去問題を解く。丁寧な解説をします（令和3年7月分）			過去問題	
12	過去問題を解く。丁寧な解説をします（令和3年12月分）			過去問題	
到達目標	12月のジョブパス検定3級合格する。ビジネス文書力を上げ、時事用語を身につける。				
評価方法	ビジネスマナーワークブック提出（2回）及びジョブパス検定3級合格にて単位取得				
テキスト	ビジネスマナーワークブック、ビジネス能力検定3級テキスト				

学科	美容科	担当教員	楓		
科目名	表現技術（英会話）	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	10
教育目標・ ねらい	1. 美容サロンでの会話を想定し、ボキャブラリの学習を主体として将来に役立てる。 2. シンプルな文系を繰り返し使い、実用的なフレーズの定着を図る。 3. アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	Warm Up -自己紹介 20 minutes, Unit 1 - Dates and Times 基本的な挨拶、時間、曜日、日付の会話表現 ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 1				
2	Warm Up - 5minutes, Unit 2 - Greeting a client 挨拶からお待ちいただくまでの会話の流れ ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 2				
3	Warm Up - 5minutes, Unit 4 - Chatting with a client 出身地、天気、趣味等のやりとり Unit 5 - Shampooing シャンプー関連会話 ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 4 & 5				
4	Warm Up - 5minutes, Unit 6 - Counselling 頭部のボキャブラリ ・お客様のカウンセリング ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT				
5	Warm Up - 5minutes, Unit 7 - Cutting 頭部の各部分のボキャブラリ ・ Basic Dialogue and Useful Words and Phrases of UNIT 7				
到達目標	アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施し、将来に役立てる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	English for Beauty Salons				

学科	美容科		担当教員	阿見・藤野・山下・星野	
科目名	ビジネスマインド		学 年	1	実施時期 前期
授業形態	講義・演習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位) 15
教育目標 ・ねらい	個々の学生のキャリアプランを明確化するため、業界人並びに卒業生と連携を図りつつ授業を行う。授業の教育目標は、職業人に求められる「社会人基礎力」を構成する3つの能力（前に踏み出す力、チームで働く力、考え抜く力）の習得・向上である。				
授業回	学習内容				備 考
1・2	ビジネスマインド① 挨拶・基本動作・ 身だしなみ	挨拶の意味、お辞儀の角度、おしゃれと身だしなみの違いを学ぶことで、社会人としての基礎的な立ち居振る舞いを習得する。			
3・4	ビジネスマインド② 表情・態度	対人とのコミュニケーションの中で、非言語コミュニケーションが、いかに重要な要素であるかを学び、職業人としての、好感の持てる立ち居振る舞いを習得する。			
5～8	セルフマネジメント ①	夢や目標を叶えるために必要なセルフマネジメント能力とは何かを学び、今後の学校生活の修学目標・目的意識を明確にする。			
到達目標	職業人として求められている資質・能力を身に付けるために ・問題解決に向け、自律的に行動できる。 ・問題を見出して解決方法を探ることができる。 ・得られた情報を分かりやすく発信・伝達することができる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない				
テキスト	プリント				

学科	美容科	担当教員	阿見・藤野・山下・星野		
科目名	ビジネスマインド	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標 ・ねらい	個々の学生のキャリアプランを明確化するため、業界人並びに卒業生と連携を図りつつ授業を行う。 授業の教育目標は、目標を達成するために対話を通じて他者と協働し、『問題解決のために論理的に考える力』と『PDCAサイクルを回す思考力と行動力』の習得・向上である。				
授業回	学習内容				備 考
1~3	セルフブランディング ①	市場価値の高い人材になるため、常に成果を出すためのアイ スバークを学び、自分がなすべきことを適切に判断することが できる。			
4・5	セルフブランディング ②	困難な障害が生じたとしても、乗り越えるための方法や考え 考え方、粘り強く実行することを一流業界人から学ぶことで 自身の経験に活かすことができる。			
6	セルフマネジメント ②	様々な状況や場面を踏まえて、目的と優先順位とを明確に し、最も大切なことに時間をかけて集中できるよう時間管理 術を習得する。			
7	逆算思考①	人生の目的・目標を明確にし、ありたい姿から今現在まで、 逆算思考をすることで、何をすべきなのかという『実行目 標』を明確にすることができる。			
8	逆算思考②	同上			
到達目標	目標達成のために ・対話を通じて他者と協働することができる。 粘り強く取り組み続けることができる。				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価 対象としない				
テキスト	プリント				

学科	美容科	担当教員	立花		
科目名	高度総合美容技術理論 (ヘアケアマイスター)	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	サロン実務において必要な知識の習得				
授業回	学習内容				備 考
1・2	毛髪化学1	①毛髪と構造の働き ②タンパク質について ③キューティクルの構造と役割 ④細胞膜複合体の構造と役割			
3・4	毛髪化学2	⑤コルテックスの構造と役割 ⑥間充物質の働き ⑦メデュラの構造と役割			
5・6	毛髪のカウンセリング	①毛髪の見極め方 ②くせ毛やダメージについて ③毛髪健康状態について			
7	ヘアケア剤	①界面活性剤について ②シャンプーとトリートメント剤について ③スタイリング剤とホームケアアドバイス			
8	検定対策	ヘアケアマイスタープライマリーコースを合格するために、過去問題および予想問題を回答し合格点数をとるだけの知識を修得する			
到達目標	ヘアケアマイスターブックブックを使用し、3章までの知識を修得する				
評価方法	ヘアケアマイスタープライマリーコースを合格する				
テキスト	ヘアケアマイスターブック				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は20年以上の化粧品製造会社での実務歴を有し、サロンスタッフ(特にインターン)が施術する際に極めて重要な毛髪に関する実践的知識を伝える				

学科	美容科	担当教員	阿見・藤野・山下・星野		
科目名	高度総合美容技術実習	学 年	1	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	120
教育目標・ ねらい	美容技術の基礎的知識、技能を身につけ、ビューティークリエイターとして必要な応用力と想像力を高める。				
授業回	学習内容				備 考
1～14	サロンスタイル 展開図 (ロング)	髪の毛を自由に表現するために必要なカット技術とブロー セット技術を応用し、ロングスタイルを作成するための技術を習得 する。			24時間
15～20	サロンスタイル 展開図 (ミディアム)	髪の毛を自由に表現するために必要なカット技術とブロー セット技術を応用し、ミディアムスタイルを作成するための技術を 習得する。			16
21～25	サロンスタイル 展開図 (ショート)	髪の毛を自由に表現するために必要なカット技術とブロー セット技術を応用し、ショートスタイルを作成するための技術を習 得する。			16
26～40	クリエイティブ スタイル展開図① (レイヤー)	髪の毛を自由に表現するために必要なカット技術とブロー セット技術を応用し、クリエイティブなレイヤーヘアスタイルを作 成するための技術を習得する。			24
41～43	クリエイティブ スタイル展開図② (グラデーション)	髪の毛を自由に表現するために必要なカット技術とブロー セット技術を応用し、クリエイティブなグラデーションヘアスタイ ルを作成するための技術を習得する。			8
44～51	クリエイティブ スタイル展開図③ (フリースタイル)	全てのカットならびにブロー技術を用いて自由な表現のヘアスタイ ルを作成する。			12
52・53	撮影	自身の作品を記録するために必要な撮影技術を学ぶ。			8
54～60	来客実習	教員による施術 (シャンプー、マッサージ、シェービング、ブロー) のサ ポートを行い、お客様からの信頼を得るプロセスを実践的に経験す る。			12
到達目標	ヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタ イルをカタチにする技術を習得する。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数 (全体の4/5) を下回る学生は受験す ることができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、基 礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う				